

平成 23 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : iK介護グループホームスマイル

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500064		
法人名	アントレーヴ株式会社		
事業所名	iK介護グループホームスマイル		
所在地	〒025-0314 岩手県花巻市二枚橋第5地割360番地1		
自己評価作成日	平成 23年 12月 1日	評価結果市町村受理日	平成 24年 4月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390500064&SCD=320>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成 24年 2月 8日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1 地域交流→毎月スマイルにっこりデーと8月のスマイル祭りで施設の開放をしております。  
 ・併設しているディサービス利用者との合同誕生会をしております。  
 ・花巻看護専門学校実習の受け入れをしております。  
 ・地区の祭りでは子供神輿が来てくださいます。
- 2 2人夜勤体制や急変時の対応の定期的訓練を実施し、安全で安心な生活を提供しております。
- 3 タクティールケアで認知症緩和ケアに取り組んでおります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は花巻空港の西側で、花巻温泉に通じる道路沿いにある。スマイルの羅針盤である理念を基に、関連事業所とともに「安全対策・第三者委員会」など4つの専門委員会を立上げ課題等を話し合いながら支援に活かしている。利用者の尊厳を守るため、言葉遣いは勿論、五感を働かせた気配りで、ゆったりと安心感のあるケアに取り組んでいる。夜間は、緊急時や災害時に備え看護職との2人体制である。管理者と職員は信頼関係が築かれており、職員の自主性を尊重し意欲的で明るい雰囲気がある。民家が離れているため、スマイル祭りで地域住民が施設に訪れやすい機会を儲けたり、地域の文化祭や敬老会への参加、併設ディサービスとの交流を通じて地域との交流を深めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : iK介護グループホームスマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎朝唱和して理念を共有・実践できるように心がけております。理念について学習を行い意味を深めました。	皆で話し合い作り上げた理念、「共にほほえみ・手をつないで・あなたを大切に・地域との和」を掲示し毎朝唱和している。具体的な行動や言葉かけの事例など業務改善会議で再確認しながら、利用者が安心できる生活を大切に実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月15日をにっこりデーと称して地域の方や家族が利用者とレクリエーションやオヤツを共にする機会を作っております。町内の祭り際には、子供神輿に施設へ立ち寄りいただき、施設を知っていただく機会を作るようにしております。幼稚園や保育園の園児の訪問で楽しく交流を行っております。地元のクリーニング屋を利用し、便宜を図っていただいております。地区の文化祭に利用者の作品を出品しております。	地域の自治会に加入し、市の広報も配布されるなど関連事業所と共に地域の一員となっている。また、自治会の回覧や近くのお店にポスターを掲示してもらうなど地域への広報に努めている。毎月のにっこりデーの開催や利用者の敬老会への参加、祭りの子供御輿の訪問、地域文化祭に利用者の作品展示、保育園児との交流など、民家と離れているが、地域との交流を積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事の時、介護用品展示コーナーを設けております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括支援センター、利用者、家族等の出席で2か月に1回開催しております。消防署や他のグループホームの方を招き貴重な意見をいただいております。	会議は定期的に行なわれ、テーマは利用者の気付きを参考に決めて、日常の出来事からの課題を柱に、他事業所の施設長や駐在所員など、その都度課題に沿った委員を依頼し、その内容や情報をサービス向上に活かしている。委員が地域との輪を広げる役割も担っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平成23年4月に運営推進会議に出席していただき、震災にあたり「災害について」の貴重な意見を通して、実状や対策を伝えながら協力関係を築く努力をしております。	市の担当者や地域包括支援センター職員も運営推進会議のメンバーとして参加している。震災時は、市の安全確認の対応がすばやく、日頃の事務的な連携の大切さを再確認するとともに今後も協力関係を大切にしていきたいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	設立当初からこの施設では研修の下に身体拘束はしないという管理者・職員一致の意見でケアをしております。センサーマットの使用と玄関に鈴を取り付け自由な出入りを見守る対応をしております。	研修や日々の話し合いを重ね、言葉も含めて拘束しないケアを行なっている。見守り補助具は活用しているが、「日中は玄関の鍵はかけない」をモットーにし、帰宅願望を含め外出志向の方には付き添い散歩を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	設立当初より虐待防止について学び、倫理を朝夕に唱和し倫理に基づいて援助していけば虐待はないと考えます。また、利用者には絶対言うべきではない言葉を朝夕に確認し合って一日を振り返っております。倫理綱領チェック表を用いて毎日、自己チェックを行っております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今の入居中の利用者は皆家族がいるので今現在活用する方はおりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分時間をかけて説明し、利用者家族にできるだけ納得していただけるようにしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へのアンケートを基に意見を受けとめ、また面会の折に家族の気持ちや意見を聴くようにしております。利用者の気持ちや状態把握にお好みリストを用いて日常生活に生かしております。意見箱を設置しております。第3者委員を設置して、利用者の意見を聴いていただいております	意見箱や第三者委員から外部の意見を聴くシステムを作っている。利用者からは日々の行動や話題から、家族はアンケートや面会時の話などから意見や提言を聴きそれらを運営に活かしている。脱衣室で利用者の「寒い」の一言がヒーターの設置に繋がった事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りや業務改善会議、介護部代表者会議を通じて意見や提案を聴いて業務に反映させております。職員の朝食・夕食時間をとることが困難とのことで、検討いたしました。	管理者と職員は常に話し合いがなされている。日々の暮らしの中から職員の気づきを大切に、朝夕の申し送りやメモによる掲示などから業務改善会議で検討し意見を運営に活かしている。職員の勤務体制等についても話し合い反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員はグループホームの仕事にやりがいを持っており、また管理者は働きやすい職場環境を作ることに努めております。資格取得者に資格手当が給与されております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会・研修会があれば積極的に参加してもらっております。それを施設内で発表してもらい、知識の共有を図っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の同業者と交流する機会を作っております。他のグループホームとの交換研修や運営推進会議へお互いに出席して交流や意見交換をしております。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ多くの情報を取り入れたうえで本人と面接し出来るだけ早く馴染みになれる様にしております。また事前に施設を見ていただき慣れ親しんでいただけるように配慮しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に施設を見ていただき家族の意向に沿える環境か判断していただいております。また家族の心配や要望を十分に聴くようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや要望を十分聴きそれをケアプランに生かしております。本人や家族の不安を早く解消できるように、また信頼関係を築けるように配慮しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事や畑作り、ゲームをしたりテレビを見たりして家族同様の生活ができるように努力しております。ただし馴れ合いにならないようにしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちや思いを理解した上で面会外出などの機会を多く持ってもらえるようにしております。行事への参加の機会を持っていただきながら本人と家族の絆を大切にしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅などの外出外泊の機会を作ってもらえるようにしております。面会に来てくれた知人の方にはまた来ていただけるようお願いしております。併設のサービスとの交流も大切にして馴染みを深めております。	入居時に、自宅への外出・外泊や家族・友人との繋がりを継続できるよう家族や身元引受人と話し合いを十分に重ねている。定期的に外泊する利用者、友人の面会、遠距離家族は利用者と同室に宿泊するなど馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良い関係を築けるように座席の配慮や職員が間を取り持つようしております。また利用者同士が共に仕事やレクリエーションが楽しみ合える様に見守り、寄り添っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で契約が終了してもお見舞いに行き様子を見たりしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お好みリストを活用して本人の意向等の把握に努めてアセスメントのツールとしております。また、申し送りの情報共有で一人ひとりの思いや、希望の把握に努めております。	日々の支援記録や申し送り内容から、担当者がお好みリスト(にっこりしたこと・いやなこと)をメモし、本人の傾向を把握している。これを基に皆で話し合い共有し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や趣味・特技などを事前調査や面会時に情報を得るようにして馴染みのものを居室に置くなど日常生活に活かすようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の情報交換を密にし、バイタルチェック・排泄状況など利用者本人の状況を総合的に把握するようにしております。また、できないことよりできることに視点をしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直しは職員全員が目を通し、その意見を基に、また家族からの情報も反映できるようにしてケアプランを作成しております。	家族の意見やお好みリストを参考に定期的に職員で検討してケアプランを作成している。状況に変化があった場合はその都度見直している。利用者が喜ぶことは選別せずに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やお好みリストの記入や、職員間で情報を共有しプランの見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が宿泊を希望される時など状況に応じて援助を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方ボランティア団体の方の訪問を受け入れて活用しております、火災避難訓練では消防職員の指導を受けております。花巻消防署からAEDトレーナー・リトルアンを借り、心肺蘇生法の訓練を行っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急の場合を除き、かかりつけ医への受診は家族対応をお願いしております。受診の際は健康状態の情報を提供、受診後の結果を家族から報告を受けております。	受診は原則かかりつけ医で家族にお願いし、自宅の遠い利用者や家族の都合がつかない場合は職員が対応している。普段と異なる状況時は職員も家族とともに対応し医師への情報提供等行っており、医療情報は常に家族とともに共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員・看護職員はお互いに情報を共有しながら利用者の異常に早く気が付き受診に繋げております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院について利用者が安心して治療できるように病院関係者と情報交換や相談しながら行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての指針が出来ております。まだ該当する利用者おりません。今のところ契約時に本人家族への説明に留まっております。	看取りの指針を作成し、契約時に利用者、家族・身元引受人に説明している。現在は、急変等緊急時は医療機関をお願いしているが、病状安定後の受入れ態勢として、終末期や看取りの体制をより具体的に職員で検討したいとしている。	利用者の介護度が年々重くなり支援の度合いが高まってきている。看取りの指針を基に研修や話を重ね関係機関との連携も図りながら、職員が看取り意識を共有できる体制の確立を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署より用具を借りてきて心肺蘇生法やAEDを研修しております。また急変時に備え連絡網を作成しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災の通報訓練や初期消火・避難訓練をしております。消防署立ち合いのもと母体であるアントレーヴ、ディサービスと連携を図り、また民生委員の協力を得て避難訓練を行っております。	関係事業所全体で、毎年、運営推進委員等の協力のもとに消防署の立会で避難訓練を実施している。更に毎月9日を防災訓練日として夜間想定や出火場所の変更など工夫しながら独自に防災への備えに取り組んでいる。	関連企業・事業所を上げて避難訓練等防災対策に積極的に取り組んでいるが民家と離れた場所に立地していることから、特に夜間、近隣商店や地域の協力体制が得られるような工夫を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような支援に努めております。また絶対利用者に使用してはいけない言葉のマニュアルの基に、朝夕チェックし合っております。個人記録は書庫に保管管理、メモ類も裏返して個人情報の取り扱いに注意を払っております。	利用者の尊厳を守るための「絶対使用してはいけない言葉」のマニュアルを職員が話し合い作成して、職員同士がチェックし合う体制をつくっており、気づいたときは「はい10円！」の合言葉で注意しあっている。倫理要綱の「差別や虐待を行いません」を、朝・夕の引き継ぎ時に唱和・確認しながら共有し支援に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ利用者のそばに寄り添って利用者の気持ちや希望を引き出せるように心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	娯楽・レクリエーションへ無理に参加させる事がないように利用者一人ひとりの思いをキャッチできるように心がけております。利用者の出来ることを見つけてグループホームでの役割を持ってもらえるようにしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・家族の希望する理容・美容店でおこなっております。希望者にはホーム内で理容をしております。毎朝の髭剃り、女性は外出時に口紅をしておしゃれができるようにまた、衣類はいつも清潔にし、希望する衣類を着用するようにしております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ利用者・職員と一緒に食事の準備片付けをやるように心がけております。一度に食事を摂れない方には時間帯をずらしたり、個々のペースに合わせ、また刻み食の必要な方に合わせ、楽しく食事ができるように努めております。	献立は、利用者の好みを配慮し季節感を取り入れ職員が考えている。利用者は、野菜の皮むきや千切りなど能力に応じて行なうなど準備や後片付けを行なっている。食事時間は、各自のスピードに合わせ決して急がせず、ゆったりとした雰囲気の中で職員とともに食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事前には口腔体操を行い、食事のときには各テーブルに職員も入り皆の摂取状態が分かるようにして食事量・水分量を把握しております。定期的に体重測定をして利用者の健康には気を付けております。食欲低下時には主治医に相談して、エンシュアを併用しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事後に、個々の状態に合わせ歯磨き・うがい・入れ歯洗浄の声掛け・みまもり・介助を行い口腔の清潔に努めております。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録や排泄チェック表で排泄パターンを把握して、できるだけトイレ誘導をしております。便秘がちの方もおり体調が整えられるよう下剤使用を含め支援しております。	排泄チェック表を参考に、行動やしぐさを察知して事前に誘導し、出来るだけトイレで出来るようにしている。下剤服用の利用者は服用時間を調整日中に排便できるように工夫し、利用者が心地よい状態でいられるような支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容・水分の摂取量や活動等を通して体調を整えるようにしております。なお便秘がちな利用者にはかかりつけ医の指示を仰ぎ、薬、浣腸をしようしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者全員が介助か見守りの必要な方なので自由に入浴できる状況でないため、その方に合わせ時間帯を午前と午後に分けて支援させてもらっております。また入浴のなかった利用者には足浴を行っております。	お風呂には保湿や保温効果のある入浴剤を使用し、利用者の体調や気分に合わせて入浴や足浴支援をしている。また状況に応じて、音楽で入浴の雰囲気を高めたり職員とともに唄を口ずさむなど楽しみながら入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整え日中の活動を促しております。利用者の生活パターンに合わせて状況に応じて昼寝をしていただいたり支援しております。冬季には湯たんぽを準備して安眠できるようにしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者本人の薬がよく確認して、また飲んでしまうまで見届けております。薬の変更や追加があれば、連絡ノートや引継ぎ時に、薬効や副作用などを報告し職員皆に知らせております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫、畑仕事、家事などその方に合った役割を持ち過ごしております。天候の良い日には皆でポーチに出て、嗜好品を取り入れながら会話や歌など気分転換の支援をしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者のほとんどは移動時の介助・見守りが必要な方々なので自由に外出は難しいです。そのような中でもお花見やピクニック、外食などの外出支援に取り組んでおります。出来るだけドライブ、散歩の支援をしております。また、庭の花壇や裏の畑に出て楽しんでおります。	季節毎に、元朝詣り・お花見・もみじ狩りや時にはおすし屋さんでの外食などボランティアの協力のもとに外出を楽しんでいる。散歩びよりの日は、庭に出て花壇や家庭菜園の見回りをし気分転換を図るなど利用者の思いを推し図りながら希望に添えるように支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の時から現金を所持している方はおりませんでした。スマイル祭りの機会に合わせ買い物支援を行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話ができるように対応しております。年賀状の支援をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く窓は半円形の大きなガラス張りです。明るく、広々としたホールに季節の花を飾り、写真や利用者の作品を展示して、季節感や柔らかな雰囲気を作るようにしております。ホールからは車の往来が見えたり、出窓からは花壇の花や、猫が歩くのを見て喜ばれたり刺激もあります。	天窓からの自然採光、割れても飛び散らないガラス窓、片麻痺でも左右対応できるトイレの設置等ユニバーサルな空間に配慮されている。天井の太い梁の上には、ぬいぐるみや手芸作品、水木だんごなどが飾られ、丸テーブルやソファの思い思いの場所でBGMが流れる中、風景を眺めたりゲームを楽しみながら職員とゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの空間を広くとっており、その中に3つのテーブルを配置しソファを置いております。そこで自由に雑談をして過ごしております。また広い和室もあり、そこで横になり過ごしたりしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人の馴染みの品、思いでの品(ぬいぐるみ、鏡台、写真、花等)を持ってきていただき、利用者の部屋作りをしていただくように家族にお願いしております。居室で家族とゆっくりできるように配慮しております。	利用者の使い慣れた鏡台やタンスが設えられ、家族の写真・手作りの手芸用品が飾られている。嗜好品の入った冷蔵庫を置いてプライベートな時間を楽しんでいる利用者もおり、自宅と変わりなく安心できるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーや手すりの設置をしており、状態に応じて車椅子を使用できるようにして安全には気を付けております。居室の入口には名前を表示したりトイレや風呂場も分かり易く表示しております。		